



暑い暑いのご挨拶の八月だった。日本全国万遍なくの暑さに避暑地などどこにもないような驚きを覚えた。「何とかせにゃいかん」。皆そう思いながらも、ついつい地球の温暖化に目を背け続けてしまっている私たちである。

私たちの日常の暮らしはある意味では「自然への挑戦」でもあることから、必然こうなることは分かってはいたが、分かってはいても便利さと快適さについつい心奪われ続けてきたのである。

地球温暖化については、人間の生存のみならず地球上の生物の生存にかかわる深刻な問題であることから、核の問題も併せて自らが自らの首を絞め続ける歩みだけは決して続けてはならないのだ。もしこのままの状態を続けることになれば 2100 年の平均気温は、最悪のシナリオの場合には最大 4.8℃上昇するとも言われている。もう生命の限界である。

私たちには地球の未来のために二酸化炭素が地球の環境の中で自然に循環できるようになるレベルをめざし、二酸化炭素の排出の削減に弛まぬ努力を続けていかなければならない時が、今まさに来ているのである。

同朋新聞8月号において掲載されておりましたとおり、二〇二三年には「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が執り行われます。つきましては光受寺あてに真宗大谷派宗務総長より懇志のお願い文書が届きました。

具体的な金額等につきましては岐阜教区全体への割当額に基づいて、十一組への割り当て、光受寺への割り当てへと決定されてくるものと思われまます。

具体的な金額が決定されましたら改めてお知らせし、お願いを申し上げますが何年かの分割納入になるものと思われまます。いずれにいたしましても改めてご門徒皆様から徴収はせず年会費及び門徒会費積立金より支出させていただきます方向を進めていけたらと考えています。尚、今後、総代会門徒総会において決定させていただくことなるかと考えています。

つきましては宗務総長より届いております依頼文書を皆様へ公開させていただくことにより、よりいっそのご理解とご協力をお願いできればと存じます。

## 「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年慶讃法要 慶讃懇志心のお願い」

慈光のもと各位には為法ご精進のごこと拝察いたします。平素より法義相続・本廟護持の格別なるご懇念をたまわり同朋会運動の推進に「尽力いただいております」と厚く御礼申し上げます。

宗門では二〇二三年にお迎えする宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要に向けて本年七月から慶讃事業総計画に基づく歩みを始めました誕生と立教開宗を慶び讃えるということは本願念仏の教えに出遭い自らにかけられた

願いに深くつなぐその御恩報していく歩みに他なりません。そこでこの度慶讃事業は「念仏の行者たる一人の誕生」を期し法要後の宗門の未来新しい宗門のかたちを創造すべく、「宗門の基礎作り」新たな教化体制の構築―「本願念仏に生きる」人の誕生と「場の創造」―「あらゆる人びとに向けた」真宗の教えの発信を施策の根幹として取り組んでまいります。さらに「南無阿彌陀仏 人とうまれたことの意味をたずねていこう」という慶讃テーマを揚げ自らの門法生活を問いなおし、あらためて念仏申す歩みを確かめていく大切な機縁になることを願っています。

真宗本廟での慶讃法要をはじめ教区お待ち受け事業などあらゆる慶讃事業をとおして宗祖が頭かにされた本願念仏の教えをいただきなすこともに次の世代に教えを相続していかなければなりません。つきましては寺院・教会を取り巻く環境が厳しさを増す中、はなはだ恐縮ではございますが、慶讃法要の円成と慶讃事業の完遂に向けてご懇志をお願いいたしますこととあります。何卒有縁の方々お一人おひとりから格別なるご懇念をたまわりたく切にお願い申し上げます。 合掌

二〇一九年八月

真宗大谷派 宗務総長

住職・教会主管者・代務者

ご門徒各位

**お磨き** 八月十日(土) 七時より

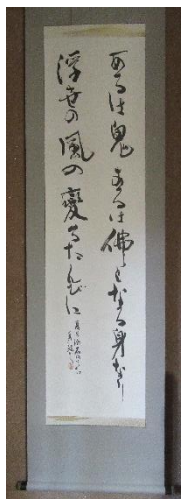
お盆に向けて有志の方々によってお磨きをしていただきました。とても暑い日でしたが、皆さん汗だくになって頑張ってくださいました。ありがとうございます。



今回は一部の仏具だけのお磨きでしたが、報恩講前には全ての仏具のお磨きとなりますので、多くの方のご協力をお願いいたします。

**今月の掲示板**

最近のニュース番組を見ると、なぜ、どうしてという信じられないことが度々起こっている。尊属殺人や、まさかという人までが事件を起こしてしまっている世の中はどこがおかしい。そんな思いで悶々としていたある朝のこと、座敷にかけられていた掛け軸に目が留まった。



あるは鬼あるは佛となる身なり  
浮世の風の変るたんびに

もうずいぶん前に坊守が書いたものらしいのだが、夏目漱石の歌であった。出典もよくわからないし、漱石のその時の心情もよくわからないのだが、自分の都合によってどうしても変わってしまう煩惱を抱えて生きる人間の本性を見事に言い当てた歌のように思えた。そして自信を厳しく見つめ生きる漱石の姿勢が見えた。

**墨俣町戦没者慰霊祭**

八月十五日。光受寺において戦没者の慰霊祭が執り行われた。毎年法要の後には、法話をさせていただくことになっている。

今年は慰霊、供養ということもさることながら「遺族も高齢化した現在においては、多くの犠牲者の皆様から私たちに願われている声を、次世代に伝えていくという、役目があること」の重さを認識していただきたい」と。この内容のことを話させていただきました。

この日は台風の影響で大雨となり大変な一日でした。



**秋季永代経が勤まります。**

期日 九月二十三日 午前 十時より 法話 住職  
午後 一時より 法話 若院  
お斎あります。

**本統寺**

当桑名別院本統寺は教如上人の開創にて、開基は同上人の息女長姫にして今を去る三百八十二年の慶長元年（一五九六）の創立であり同朋の仏法護持と祖恩報謝の懇念より設立されたもので爾来伊勢尾張美濃三国に跨がる教化の中心となり、市民からは「御坊さん」と呼ばれ親しまれている。境内には俳聖松尾芭蕉が、貞享元年（一六八四）野ざらし紀行の初旅の折り、当寺に一泊した。その時詠んだ句「冬牡丹千鳥よ雪のほととぎすはせを」の句碑（冬牡丹句碑）が建てられています。  
この句碑は昭和四十三年二月二十日に市の文化財（史跡）に指定されています。

**森ひなさん**（先月号の数え歌参照）

ひなさんが熱心に聴聞に出られたという桑名別院へ参詣してまいりました。

この日は夏休みということもあってか多くの子供たちが研修会に来ていたようでした。ひなさんの事については何も分かりませんが、本堂に身を置いていると、ひなさんの数え歌が聞こえてくるようでした。



門前にはアーケード街があり、三と八のついでには三、八市が開かれて賑わうという。この日は残念ながらその日ではなかったので、閑散としていました。

**「連絡」**

○6月より学習会・金曜喫茶始めます。  
○新聞原稿募集中！

口頭の思いをお聞かせください。  
(趣味・旅行記・俳句等何でも可)